

# 第19回 西日本国際財団アジア貢献賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

## ■RK 清水(長崎)財団

会 長：清水 勝利 氏  
設 立：2011年  
活動地域：フィリピン、長崎県長崎市

株式会社清水商会の代表として、日比間で45年以上中古船の輸出を行う中で、自身の信念である『百年国家の計は教育にあり』を実践し、第二の祖国であるフィリピンに恩返しをしたいとの思いで同国の教育大臣に面会。教育物資の不足を知り、長崎県内で使用されなくなった机椅子の寄贈や小学校の建設支援を行っている。

## ■いさはや国際交流センター

会 長：荒木 隆 氏  
設 立：1990年  
活動地域：長崎県諫早市

多良見町の企業の外国人研修生の暮らしやすい町づくりを目指して、町民との交流を図り、前身の「多良見町ホームステイ協会」を設立。発足以来、ホームステイの受け入れを根幹としながら、内閣府の「東南アジア青年の船事業」、外務省の対日理解促進交流プログラム「JENESYS」等を積極的に受け入れ、国際交流活動を行っている。

## ■木城えほんの郷みどりのゆりかご協会

村 長：黒木 郁 朝  
設 立：1996年  
活動地域：宮崎県児湯郡木城町

子どもたちの感性を育むためには絵本の世界が最も適するとの考えから、1994年開催の世界絵本原画展を機に当施設を設立。以来アジアを中心とした世界の絵本原画1,100点や作品2万冊を収集、保存し、原画展、作品展や作家の講演会など、様々な事業を実施。世に聞こえたアジアの原画や絵本の蔵書の多さで、韓国の絵本関係者の来訪や中国、インドを中心とした絵本を通しての交流を行っている。

## ■しものせき国際交流ねっと

代 表 者：石井 由利子  
設 立：2011年  
活動地域：山口県下関市及び近郊

2010年に山口県国際交流協会下関分室が閉鎖されたことを機に市民が中心となり異文化の外国人との出会いや交流を積極的に行う当会を設立。市民による国際交流の推進、フェアトレード商品の販売など国際協力の機会と情報の提供、異文化理解講座の実施、在住外国人の支援につながる講座や日本語教育などを行政に頼らず市民の草の根で行っている。

## ■NPO 法人ヒーリングファミリー財団

理 事 長：大垣内 勇 氏  
設 立：2008年  
活動地域：タイ・チェンマイ、佐賀県多久市

日本で使用しなくなった車いすを障がい者施設から譲り受け、小学校や放課後児童クラブ、福祉作業所等で磨き上げてもらい、年2回実施するスタディツアーでタイに届けている。また、タイでの介護技術講習、タイの障がい者が製作したコースターの売上を東日本大震災被災者に寄付する等交流が広がっている。

## ■福岡帰国留学生交流会

会 長：林 安 徳  
設 立：1993年  
活動地域：アジア各国、福岡県福岡市

タイの元福岡留学生との交流を機に発足。以後毎年福岡の地で学んだ元留学生の祖国を訪れ、彼らの職場や学校で懇親会や意見交換会を開催。訪問数は24回に上り、同側会組織の発足の機会の寄与、アジアの留学生に対する日本人の蔑視感や欧米一辺倒の傾向を見直すきっかけとなった。現地の帰国留学生会発足にも寄与し、図書寄贈も行っている。

## ■弓場 秋信

活動開始：1972年  
活動地域：東南アジア、鹿児島県

1972年から2年間青年海外協力隊として訪れたマレーシアでの活動で感じたことをきっかけに、帰国後1990年に3つの国際交流団体を東ねて鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会を結成。年に約15人の中高生を東南アジアに派遣する活動は、26回に上る。1997年には「いっしょき学校を作りもんそ会」を結成し、カンボジアでの学校建設をはじめ、教育や農業支援を行っている。

※上記7団体は第19回アジア貢献賞に推薦された16団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

(五十音順)

# 第13回 西日本国際財団アジアKids大賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

## ■ありあけ国際交流協会ヤングチャレンジ

代 表 者：児玉 伊左夫  
活動開始：2009年  
活動地域：フィリピン、アメリカ、熊本県荒尾市

2008年荒尾第五中学校閉校に際し、同校が行っていたオレゴン州の中学校との文通の継続と、「地域発の国際人育成」を目的に発足。最近では身近なアジアとの交流を増やすべく、フィリピンのゴミ山で暮らす子どもたちの実情を知る講話を手始めに、フィリピンの小学校に物資を送る活動や、有明高専のアジア留学生との交流会など活動を広げている。

## ■太宰府市立太宰府西小学校

校 長：古賀 淳子  
活動開始：1989年  
活動地域：韓国・扶余、福岡県太宰府市

平成元年に当時のPTA会長の橋渡しによる韓国扶余邑百濟初等学校との交流をきっかけに、同校と姉妹校を締結。相互訪問を中心とした交流を継続しており、外国語活動の一部に韓国語を取り入れている。

(第1回アジアKids大賞受賞)

## ■日韓子ども国際交流体験実行委員会

代 表 者：中本 年信 氏  
活動開始：2006年  
活動地域：韓国、長崎県長崎市

日韓の子どもの交流体験を目的に長崎市の3つの小学校の連合団体として設立。2006年に同団体を解散し、現在は地域の人材を集めた実行委員会組織として、ホームステイを通じた国際交流活動を行っている。子どもたちが言葉の壁を越えて自発的に相互交流を図ることで国際感覚の醸成、相互理解と友好親善に繋がると期待されている。

## ■日韓親善子供大使友好の翼実行委員会

代 表 者：山口 紀史  
活動開始：1991年  
活動地域：韓国・釜山広域市、鹿児島県霧島市

1991年、みぞべ西郷どん交流館が駐福岡大韓民国総領事館親善使節団を受け入れたことをきっかけに溝辺町の陵南小学校と韓国の培英初等学校で絵画交流を実施。その後、相互訪問交流に発展し、1997年以降は活動範囲を溝辺町の小学校全体に広げ、霧島市となった現在も国際感覚溢れる青少年の健全育成に深く寄与している。

※上記4団体は第13回アジアKids大賞に推薦された7団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

(五十音順)